上田蠶絲專門學校

（毎月一回十五日發行　定價一部五錢一年郵稅共六十錢）

編輯兼發行人　小松忠一郎
發行所　長野縣上田市上田蠶絲專門學校千曲會
印刷所　長野縣上田市原町中澤印刷所

最近の支那綿業事情に就て

野口新太郎

最近私は支那大陸を約一ケ月餘に亘つて旅行視察して參りました。つきまして視察は今から凡三十分間の豫定を以つて視察談を試みたいと思ひます。然し元來多岐多樣眞に捕捉し難いのが支那の正體であります。之を限られた短時間に各方面に亘り要領をかいつまんでお話すると云ふ事はなか〱難事と考へます。尙今日は此後校長先生の有益な滿洲視察談があるのであります。私の話で先生の時間を妨げてはなりません。就きましては今日は今度見て參りました彼の地の綿業事情殊に北支棉花の重要性と云ふ樣な事についてお話してみたいと思ひます。從つて演題がやゝ專門的になつて、養蠶、製絲及化學の方の諸君には一寸關係が薄い樣にも考へられますが、然し新東亞建設は今我國民に課せられた最大の責務でありまして、就中資源開發は其の最も重要な事項に屬するのであります。其の大要を諒解して置く事は國民の常識としても必要だらうと考へます。どうか暫くの御辛抱を御願ひ致します。

日本綿業と北支棉

扨て、我國が世界有數の綿業國でありまして設備錘數から見ると世界第三位若くは第四位、一千二百萬の錘數を有し、之に對する年々の棉花消費數量凡一千二三百萬ピルク世界第二位を占めると云ふ事は既に御承知の事と思ひます。然し、此原料棉花は總べて之を海外に仰いでゐるのでありまして、其金額年凡十億圓に達するのであります。然し之を又紡績製織加工致しまして國內の需要にも充て更に又海外に輸出しまして尙差引昨年度の如き凡三億圓の受取勘定になつてゐるのであります。即ち、綿業にて凡三億圓の外貨を獲得してゐる、又換言すれば此事局下に三億圓の戰事資材を獲得してゐるわけであります。我國綿業の重要性は此處にあるのであります。然るに近年世界の情勢は極度の經濟ブロック結成にと進みつゝありますので、綿業に於ても國際貸借の關係上今迄の樣に外棉輸入が不可能になつて參つたのであります。從つてその補充は圓ブロック內に在る北支棉に求めなくてはならなくなつたのであります。即ち北支棉の重要性が俄かに增大して參つたのも此の意味からであります。

支那大陸は古來棉作地として知られ、亞米利加、印度に次いで世界第三位でありまして、世界產額の十三パーセントを出してゐるのであります。而して其內譯は北支最も多く、中支之に次ぎ、南支は極めて僅少であります。

北支と中支

扨て、此處で一寸申上げて置きたい事は、中支もほぼ北支に次ぐ產額があるのでありますが、北支と中支とは經濟的に全然別になつてゐまして、通貨も全然違ふのであります。北支の方は我日本の勢力範圍で、經濟的に云ふと同じ圓ブロック圏內でありますが中支はそうは行きません。即ち中支と北支とは互に隣接してはおりますが、今の處經濟的には外國の樣なものになつてゐるのであります。でありますから中支の棉花はそのまゝ紙幣で買つて來るわけには行かないのであります。でありますから本日の私のお話は北支に限る事に致して置きます。

北支棉について

扨て話は戻りまして、本來棉樹は乾燥を好む植物でありまして、雨量は少い方が宜敷いのであります。又氣溫は生育中決して零度を降らない事即ち霜は絕對禁物であります。土壤は河川の流域等に見る砂礫性土壤が適するとされてゐます。さうしますと之等の諸點から見て北支は大體棉作の好適地であります。雨量も極めて少い、年六百ミリ位に過ぎません。又無霜期間は棉樹は百八十日位で成熟してしまふに對し、北支では二百五十日位霜が降らない。冬季は相當寒冷であるが此事は却つて害蟲驅除に宜敷い。又土壤も黃河其他の流域等はアメリカのミシシツピー、埃及のナイル流域にも匹適するのであります。只一つ此地帶は四、五月の播種季に雨が少いので屢々發芽困難を來たし、再播種の止むない事があるのであります。此事が北支棉花栽培の缺點であります。それで此季節に雨さへあれば其年の豊作は期待出來るのであります。

產地は大體廣く北支一帶に亘つて栽培されるのでありますが、そのうちでも主な中心地方は、山東省では臨清、齊東、曹縣等を中心とする黃河下流一帶、河北省では石家莊を中心とする近傍一帶及津浦線に沿ふ近傍一帶、山西省では臨汾から運城に亘る附近一帶であります。

運動用具
理化器械
化學藥品
度量衡
計量器
掛圖全般
は弊店へ

カルニユー顯微鏡
山田体育機械
森本運動具店
日本出版社
長野縣代理店

信濃教育品株式會社
サトウ商店

東京本店　電話日本橋(24)一六五六番
長野支店　電話二七三四番
篠ノ井支店　電話一四一番
上田支店　電話五七三番
松本支店

鈴蘭香る高原へ

春……鈴蘭狩り
夏……ハイキング
　　　キャンプ
　　　避暑
冬……スキー

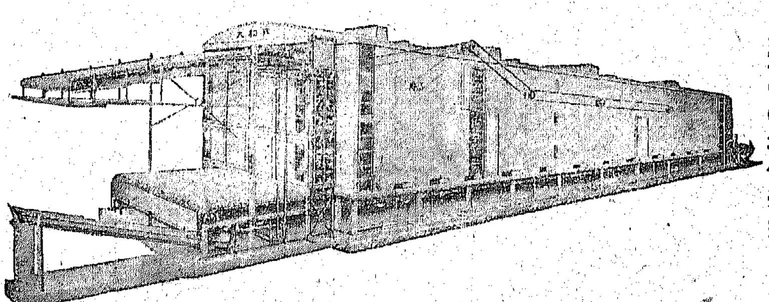
スキーコース、宿泊等は御問ひ合せ次第御回答致します

千曲會指定旅館

信越線上田驛前　上村館　電話上田344
長野縣菅平高原　菅平ホテル　電話菅平局1番
長野縣菅平高原　鐵道省山の家　電話菅平局呼出

現代乾繭機界ノ王座
大和式自動輸送乾繭機

【各種型錄贈呈】



二六〇〇年代表型

製作發賣元
株式會社
大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番
〃　〃　五二〇〇番
〃　〃　一七四三番

營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまナホイロ
特許サンコー式濾過淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラップ

品種は大體二種に分れまして、俗に細毛と呼んでゐる米棉種と粗毛と呼んでゐる在來種とであります。その栽培割合は米棉種八割、在來種二割であります。在來種は纖維短く平均四分の三吋位で天然撚も乏しく、紡績には餘り適しません。普通天津棉と呼ばれて主に滿洲棉に使はれてゐます。又米棉種と云ふは亞米利加から持つて來た品種で、亞米利加のテキサス棉を初め朝鮮へ持つて來て朝鮮向に改良し、それを更に北支へ持つて來たものであります。大體米棉のテキサス棉に類似する品位を持ちまして纖維の長さも平均一吋四分の一あります。英番三十二番位までの紡出に適し、特に優良品は六十番位迄の紡出可能であります。

産額は事變前は年々五百萬ピクルを出してゐましたが、事變以來戰禍其他の原因によつてづゝと減少しまして百十乃至百三十萬ピクル程度になつてゐます。

北支棉花增產計畫

そこで事變直後から八ケ年の計畫を以て之を一千萬ピクル迄增產しやうと云ふ所謂北支棉花增產計畫なるものが出來まして既に二ケ年を經過してゐるのであります。此の計畫は誠に重大の意味を持つものでありますが、而も之れは決して難事ではないのでありまして、耕作面積を增して他の農作物に影響を與へる樣な事なく達せられると見られてゐるのであります。北支の棉花耕作面積は全耕作地の六パーセントに過ぎません。小麥の如きは四十パーセントを占めてゐます。それですから決して他の農耕作物に惡影響を與へる樣な心配はないのであります。

然し此處に一つの問題があります。それは北支では棉花にだけ統制相場がきめられて居りまして其の相場が大分安過ぎると云ふ事であります。何そこへ持つて來て最近北支の通貨である聯銀券が續落し、そのため諸物價暴騰して例へば彼の地の一般住民の主食であるメリケン粉の如き事變前の四、五倍にも暴騰してゐる有樣であります。從つて今迄は農作物中棉作が一番有利であつたものが今では棉作では食つて行けないと云ふ狀態なのであります。此事が現在棉花增產上一つの支障となつてゐるのであります。之は是非改める必要があると思ひます。

經濟建設と北支棉

兎も角斯樣にして增產が實現して北支で一千萬ピクル出る樣になればその半分五百萬ピクル位は大丈夫內地へ持つて來られるのであります。そして之が日本紡績の外貨獲得の資となるのであります。何棉花一千萬ピクルの價格は凡十億圓に達するのでありますから、之を若しそのまゝ內地へ持込めばとりも直さず外國から十億圓の外貨を獲得した事に等しいのであります。即ち北支棉花の重要性は此處にあるのであります。北支資源の中で特に重要と目されてゐるものに大同の石炭がありますが、大同石炭の埋藏量は或は十億噸とか或は何十億噸とか云はれましてそれは眞に大した資源でありますが假に十億噸とすれば、單價五圓とみて五十億圓であります。然し北支棉花十億圓は年々歲々繰返される收入でありまして決して輕視出來ない資源と云ふべきであります。

先程一寸北支の通貨である聯銀券が最近益々下落の傾向にあると申しましたが現在聯銀券百圓は實際三十圓位の價値しか持たない情勢なのであります。此事は我事變處理の上からも極めて困つた事で目下當局に於ても種々對策が考究されてゐる事でありませう。然しその最も效果的處理はどうすればよいか、之は明瞭であります。金さへあればよい、兌換準備金さへ作ればよいのであります。聯銀券は今北支で凡五億圓餘流通してゐるさうでありますが。今假に棉花二百萬ピクルを內地へ持つて行つてその價格二億圓を此準備金として持つて來たら如何でありませう効果は覿面であります。又聯銀券は主として都市に流通し田舍へはよく浸み渡つてゐないのであります。即ち局部的に汎濫してゐるわけで此事も一層價値低落の原因を作つてゐるのであります。それで對策として聯銀券の一部回收策も考へられるのでありますが之もなか／＼難かしい事であります。然し綿業では之が出來るのであります。即ち棉花を紡績製織して此織物を住民に賣つてその紙幣を回收すればよいのでありまして、棉花以外に斯う云ふ恰好な一般住民の買物がないのであります。

尙北支の棉花は將來は千五百萬ピクル位迄は押進める事が出來ると想像されますし、中支を合せたら二千萬乃至二千五百萬ピクルは出來ると見られます。棉花の事につきましては此の位に止めて次に紡績業について申上げてみます。

北支の綿紡

北支の綿絲紡績業は天津六十万錘、靑島四十万錘、濟南其他で二十万錘合計凡百二十万錘あります。而して此北支紡績の原料は原則として北支棉にて賄ふと云ふ立前になつてゐるのであります。所で昨年の北支棉花收穫量は凡百三十万ピクルでありまして其の內から軍需三十万ピクルを取り殘りが民需用として振向けられたのであります。さう致しますと一年一錘當りの棉花所要量は英二十番紡出として凡二・五ピクル位でありますから北支綿紡設備を全部フルに廻しますには凡三百万ピクルの棉花を要する事になります。でありますから北支紡績は此兩三年は必要量の三十パーセント位しか原料が得られないわけであります。即ち現在は各社とも所有設備の三分の一から多い所で二分ノ一程度しか動かしてゐないわけであります。此點誠に振はないと云はねばなりません。

然し乍ら一面北支棉の公定相場は先にも申述べました樣に大分格安でありますから、綿絲一梱の原棉代は四百圓程度で足ります。それに工賃はいくら高く見積つても百圓はかゝらないものと見られますから之を合せて一梱の原價は五百圓以內と推定されます。或人は三百五十圓位でも引合ふと云ふ話さへ聞いて參りました。所が此綿絲一梱の相場はいくらするかと申しますと、私の向ふに行つた時分千八百圓乃至二千圓と云ふ相場でありました。即ち北支紡績は原棉手當難から高度の操業短縮はやつて居りますが、然し反面其製品は原價の四五倍にも賣れて驚くべき利益を上げてゐるのであります。高度の操業短縮による不利を補つて餘りある事尙漢大と言ひ得られます。世間で在支紡績工場は日本紡績會社の兆箱だと言つて居りますが、眞に宜なる哉であります。

擴張は不許可

斯樣な狀態でありますから企業家は無論見のがしません。即ち新設又は擴張計劃の猛烈と起る所以でかります。然し之に對して當局は

一、原料問題（原棉不足）
二、內地設備擁護
三、資金調整

の理由の下に擴張不許可の方針をとつてゐるのであります。即ち北支紡績は今如何に儲かつても新設や擴張は行はれないのであります。でありますから今是非北支で紡績をやり度い向の者は既設華人紡を買收するか、或は合辦組織にしてその經營に割り込むかの方法をとるより致し方ないのであります。斯樣な狀勢でありますから近來各地の華人紡に對して頻りに日本資本系の買收工作が劃策されてゐる樣子であります。然し又斯うなれば華人資本家とて容易に手放しません。どこの買收交渉もなか／＼折合はないと云ふのが此頃の買收交渉風景であります。

將來の見通し

扨てそれはそれとして、斯うしますと北支の綿絲紡績業は將來とも絕對もう擴張は望まれないものか、將來棉花增產も實現され尙又需要も益々增大して來た曉にも擴張は許されないものかと云ふ問題でありますが、之については三通りの說が行はれるのであります。即ち一つは將來とも絕對擴張させては不可と云ふ說、今一つは將來事變も解決したら自由に擴張させろと云ふ說、更に又今一つは北支の需要範圍に於て擴張させると云ふ說であります。時間がありませんから之に關して詳しい研討は差控へますが、一體綿紡工場經營に就ては北支の方が內地より勝る點が多いのでありますから此事實を全然無視して將來絕對擴張を許さないと云ふのも種々の事情から出來難い事と思はれます。又さればと云ふて之を自由に放任しては將來內地紡績は次第に大陸へ流れ渡つて了ふかも知れず、それは又社會問題其の他から許されぬ事と思はれます。でありますから私は恐らく最も中庸妥當である方策、即ち北支の需要範圍に於て之を擴張させて行くと云ふ方針が採用されるに至るだらうと信ずるものであります。

然らば北支の綿絲布需要狀況は如何樣であるかと申しますと、北支の人口は凡一億でありまして現在此住民一年一人當りの綿布需要は約十平方碼とみられております。之は甚だ少量でありましてすぐ隣の滿洲住民に比べてもその半分にしか當りません。然し之は以前蔣政權時代外國品抑壓の政策其の他に原因するものでありまして甚だ不自然な數字と云はねばなりません。從つてやがて新秩序も確立され所謂安居樂業の生活が實現しますれば當然滿洲並の需要の起る事は明かであります。さうしますと北支全體では二十億平方碼を要する事になるのであります一年綿布二十億平方碼に對する紡績設備と云ふものは現在の凡三倍即ち三百五十万錘或は少くも三百万錘は要するのであります。即ち將來北支紡績が北支需要を目標として擴張されるとしたら、現在の二倍半或は三倍即ち三百万錘乃至三百五十万錘位迄の擴張は行はれるのであります。北支綿紡績業の將來に大いなる期待のかけられる所以であります。

以上が今度私の目に映じました此支綿紡業の大觀であります。尙此處に御參考迄につけ加へまして北支では今どう云ふ事業が擴張を許されるかを申し上げてみますと、テキスタイルの方では綿布加工事業が許可される樣であります。それから紡績關係ではありませんが石炭、鹽等に關する事業も許される樣であります。一般的には內地事業に惡影響を與へない事業であるがそれも大資本を以てすべき大事業であります。細い中小事業には日本人の進出は不許可であります。さて私の豫定時間は既に經過致しました。私は尙絹業、製麻業、羊毛工業等にも言及致したいのでありますが、總て他日の機會に讓つて今日のお話を終ります。

（以上は六月一日興亞奉公日當日行はれた野口教授の講演要旨にして文責は編輯者に在り）

御挨拶

拜啓　時下初夏の候各位愈々御淸穆の段奉賀候陳者（小生）去る四月九日中華民國竝に滿洲國へ出張を命ぜられ候に就ては母校職員竝に同窓各位より種々御親切なる御配慮を辱ふし誠に難有御禮申上候以御蔭四月十七日長崎出帆以來五月二十日歸校迄全く無事にて視察の責を果し得候其間視察地の同窓各位に於かれては業務御多忙中にも不拘周到なる御便宜ご御手厚き御歡待を賜り感謝の至りに不堪候幸ひ歸校以來益々頑健にて或は視察資料整理に或は不在中溜積の業務處理にご忙殺致され居候間乍憚御放念被下度候先は謹んで御禮旁々歸校御挨拶迄如斯に御座候　敬具

五月二十八日

野口新太郎

大陸蠶業への認識

—小感愚語の一つとして—

—蕉—

A博士—滿洲での御仕事は何をやつて居りますか？

×××　以前は蠶とそれに桑の調査を少しばかりやつて居りましたが唯今は專ら柞蠶の方ばかりやつて居ります。

A博士—柞蠶は大いに良いですね。家蠶の方だと日本の蠶絲業との關係から言つても一寸—

×××—……

◇

B先輩—君、何うして家蠶の研究をやらないんだい。そりや今は柞蠶が大切さ！　然し將來のことを考へたら家蠶もやらなくちやならないね。

例へばだよ、今內地では豊國繭の飼育を奬勵して居るけれども誰も喜んで飼ふものは無いんだ。それを滿洲で飼はせることにしたら何うなんだい！

×××—……

B先輩—開拓地のことにしても同じことだと思ふ。成程現在は勞力の不足に惱んで居ることは事實だ。然しこれから段々家族を招致して老人夫婦とか、或は育兒等の都合上野外で働けない婦人等の仕事を考へたら當然養蠶などが考へられるのぢやないかね！

×××—……

◇

C氏—蓖麻蠶の研究をやつて下さい。蓖麻蠶なら日本の蠶業に關係はないし、その爲に蓖麻の增產が出來るとしたら纖維饑饉の折柄一石二鳥と云ふものです。

×××—……

◇

開拓地指導者D氏—桑の苗を下さい。養蠶地出身の人達が飼ひたがつて居りますから！

×××—蠶を飼ふ暇がありますか！

D氏—飼へますよ、大體八月は一種の農閑期ですし、それに北の方の農業は何うも少し單純すぎるので蠶等飼ふことが非常に意義があるやうに思ひます。

◇

E先生—君、蠶絲學會を滿洲で開くことに提議しやうぢやないか。そうすれば內地の蠶業技術者が滿洲を見聞する機會ともなろし、大陸の蠶業に就てだつていま少し眞實（ほんと）の見方をするやうになろかも知れんからね！

×××—それは出來れば甚だ結構ですねマー大陸蠶業の見方と云ふことになれば必ずしも急激な期待は出來ないかも知れませんが、例へば近頃漸く軌道に乘りはじめた柞蠶業の進むべき途と云つた方面に對して等相當有益な示唆を與へられるかも知れませんからね！

◇

F先生—今度は開拓地入りの人達の引卒者として參りました。

ところで私の學校でも今度「大陸科」と云つたやうな科の新設を考へて居るのですが御意見は何うでせうか！

×××—一寸その問題は私としては云ひ難いのですが卒直に言へば貴方の學校としては蠶の看板を懸けかえてからでなければ駄目ぢやないでせうか！　大陸で蠶をやると云へば理屈より何より先づ目に角を立てる小父サンが相當多いのですからね！

◇

G氏—大體君等には大陸蠶業に就ての一定した考へは無いのか！

君等が積極的に働かなくて誰が働くのか！

◇

E、T、C、F、T、C……

◇

自分はいま自分の意見を述べる前に例へば華中蠶絲の人々は隨分と苦しいだらうと思ふ。

それは省みれば昭和のはじめから吾々の一通り通つて來た途だからである。

大陸の蠶業を何うするか！　命題が此處に限定さるゝ限りに於ては勿論政策を加味した議論で片付く筈のものであることは明かである。然し過去に於てそれが議論で片付いたであらうか！

吾々の大先輩、湯川氏は滿洲の蠶業の問題に對して如何に論策されたであらうか！　その驥尾に附して吾々は如何に戰かつたか！

結論だけ先にして置かう。

「吾々は、否私は疲れた！」

そして今持つて居る唯一の考へは

「時が解決して吳れるだらう！」

である。そして餘程問ひ詰められた以外は私は默して語らない。この態度に對して私の友人は嗤つて云ふ。

「取殘された憶病な自由主義者よ！」

に拘らず私は肚の底から「時が解決するだらう！」と考へて居る。

一つの良い例を書いて置かう。

私達はその頃丁度內地から來られたH博士を圍んで米のこと、蠶のこと、棉花のことを中心にして色々の意見の交換をした。と云ふのは誤弊があるので實はいろ〱御敎示を願つた。當時は幸ひ？蠶の方は一應片付いて居たので專ら棉花と米の增產に就ての問題に中心が置かれたのであるが、要するにH博士の言葉として今尙當時から吾々の腦裡に深刻に燒付いて居る言葉は、吾々の水稻試驗に對して

「マー書生論は云ふな！　君等が云ふように滿洲で水稻試驗をやつて行くと云ふことは結局君等の親父や兄貴の口が乾上ると云ふことになるんだよ！」

と云ふ結論であつた。

今、自分はH博士の—H博士は名前を云つたらそれこそ泣く子も默る位のその途の權威者である—その時の誤つた結論を指摘しやうと云ふ考へではない。事實H博士の御意見を伺つて約半年にして滿洲の產業開發五ケ年計畫中に水稻の增產が取上げられたにしても、また現在は水田造成に就て助成政策までも採用されて居るにしても之は要するに時勢の然らしむるところに過ぎない。

要するに機が熟さなければと云ふことであり、機が熟するためには日本の蠶絲業が行くところまで行き、日本の蠶絲業關係者の大陸への認識が肚の底に充分還入つて後のことでなければと云ふことである。

私がこの文章のはじめの方で×××に殆ど發言せしめず、その實現性から云つたら殆ど問題にもなるまいところの蠶絲學會の滿洲招致と云つたことのみに僅かに消極的な贊意を表せしめた理由の一つが此處にある。

私は日滿支の關係は歸するところ何處までも「一德一心」で行かなければならぬと思ふ。

大陸の蠶業を何うするか！　と云ふことも日本の蠶絲業關係者が東京で、橫濱で或は福島で、長野でチット考へて居るだけでは失禮乍ら前記H博士の結論と同じものしか生れないと思ふ。

先づ大陸を見られよ！　然る後「眞の一德一心」の心の肚の底に入れ故國を、そして蠶絲業を見られよ！

然らば結論は立ちどころに得られるであらう！

私の知人のL氏はその來滿當時の感想として次の如く言つた。

「日本から眺めた滿洲は實に遠い。然し滿洲から見た日本は極めて近い」と。

私は本文の題目として「大陸蠶業への認識」と云ふ難かしい言葉を列ねた。にも拘らず私は本文の中に大陸蠶業の內容にも觸れなければ、大陸蠶業の進むべき途に就ても語つて居ない。謂ば羊頭を揭げて狗肉を賣るの類かも知れない。

然し吾々の考へる日本への距離と內地の蠶絲業關係の人々の考へる大陸への距離が少くなくとも同じ位になつた後でゞもなければ—この距離は大陸への認識の深まるに從つて短縮される—百万言を費したとしても尙かつ無駄だと云ふことになる。

たゞ、その時までチット今の通り默つて居て良いか何うか！　このことに關して私自身そろ〱疑問を持ちはじめて居ることは事實である。

今滿洲では柞蠶の大增產計畫に拍車され蓖麻蠶の飼育が眞面目に論議されて居る。折もあらば報告の機會もあるであらう。

寸閑雜記

征矢克郎

廣島に來て丁度一年半になる。

每日、人絹を引張つたり、押して見たり、煮て見たり、燒いて見たり、まるで料理屋の板前になつて鰻の蒲燒でも作つて居るみた樣に。尤も絲には天ぷらはありませんヨ。然し考へ樣では、絲に樹脂をコーチイングするとか、アルミナ石鹼の防水加工とか、ヴイスコース人絹の表面醋化とかは種が同じで衣の違ふ天ぷらと云へない事もない。つまり早い話が、人絹を作る事は料理する事である。人絹業は料理業であり、人絹技術者は料理人の樣なものであり、そして技師長はコツク長であり、吾々の樣な並の技術者（こう云へば仲々粹なものではある）は矢張り唯のコックである。ノッズルからドロドロしたヴイスコースを押出すのは丁度肉挽かウドンを聯想する。空胴式中空絲と云ふ奴があるが、ありや、西洋料理の皿の端に堆積し、フオークの先からスルツと滑り落ちて仲々吾々の手では取し難いマカロニですナ。殊に大豆カゼイン人絹に至つては、之が纖維の形態をなして居るか、居ないかは別問題として—高分子化合物の分子が鎖狀に連り而も複屈折をなすのが纖維の定義であるらしい—之は正しく豆料理である。料理人はえらいものを調理するものだと感心する。相當に高價な有機劑或は毒物迄使用して調理する料理とはチヨツト凝つた料理ではあるが。

學生時代の故金子博士の有機化學の敎科書に丸い豆から四角の豆腐が出來るとすこぶる美文を並べて、吾々の豆腐に對する味覺をそゝつたものであるが、今の世の中に丸い豆から細くて無限に長い絲が出來るのであつて、之をきいたら恐らく金子先生も草葉の蔭で驚歎の眼を瞠る事だらうと立入つた心配迄して居る譯である。

科學のたどる變位は無限大にして留る所を知らずとか、豆のウドンが偏光顯微鏡のスライドに乘り、X線の乾板にその影を投ずとか、チヨツト今昔の感なしとしないね。

そんな譯で、と云つてどんな譯でもないんだが、つまり人絹をやつて居る關係で誰に濟まんと云ふのではないが、だんだんと繭だとか、生絲だとか、凡そ蠶の口に關係のあるものに對する關心を失つて來つゝ有る樣である。新聞の經濟面を見て生絲が千圓になつた、千五百圓になつたと云ふやうな記事を見ても、何んだかピンと來ずに、反つて山田ワカ女史あたりの囂々たるスフに對する非難の黄色い聲の方が頭にひびきますヨ。

なる程吾々を育て上げて吳れた根底をなすものは、セリシン、フイブロインには違いないが、この際吾々を育て上げて吳れた環境がどんなものであつたかは問題ではなくて現在、吾々を規定する環境がどんなものであるかに因る事が多いらしいとすれば、別に不思議な事でもあるまいと思はれるのである。從つて生絲の暴騰とか、積立金問題とかはまるで對岸の火事を見て居る樣で、確に一種の刺戟にはなるが、どうも末梢的なもので、例へば春が來たとか、花が咲いたとかの類でしかあり得なくなるのも亦止むを得ないと思つて見たりするのである。

○　○　○

今度この四月から母校に纖維科が出來て講義を開始したと聞く。然もその志願者も斷然他科を壓したそうである。誠にうれしい現象である。

先生方よ、希くは、今迄の樣な硬い小さい姑息な殼から脱して、大きな舞臺で活躍出來る樣な技術者の訓育に御努力願ひ度いと思ふ。大きな希望を抱いて入學して來た新入生諸君に、僕達が味つたと同じ樣な、例へば燒欵をかむ樣な、齒ごたいのないモサツとした霧の樣な悲哀を感ぜしめたとしたら纎維科の設立も意味のないものとなりはしないかと杞憂もして見る。

序ながら、既存の學科内にも相當の革新があつた事とは思はれるが、時流を完全にキヤツチしたものを彈力性に富む學生の頭の中に注入して欲しいと思ひますナ。

例へば製絲科に於ては染色化學とか、絹絲化學のみならず纎維物理だとか、換言すれば、世の中に出てどんな方面に行つても間に合ふ樣に基礎を作つてやつて戴き度いと思ふ。

この間の千曲時報を見ると、相當に方面違いの方に就職する樣である。例へば航研、陸海軍方面であるが、もしこの方面に學校で心配して就職させ樣と思つたらもつとそれに則した事を教へてやらなかつたら就職して行く人間共は可愛相でなりません。之等の人は必ず高工出と同程度に知り、且讀む樣に相當の努力をせねばなりませんからね、その時に役立つ樣に學校で習つて居ないとすれば、相當のハンデイキヤツプを持つ事になるのであらうと思はれる。

もつと卑近な例で云ふと、製絲科卒業生を人絹或は紡織方面に就職させ樣と思つたら、この方面の智識を與へて與れて居たら大いに助かる樣にも思へる。この方面に對する勉强の緒口を與へて與れる事丈でも相當に有效である。僕達は學生時代に染色化學とか、織物組織とかは爪の垢程も習はなかつた樣に記憶する。御はずかしい次第であるが、僕達の當時の卒業生でヴイスコースの製法を不完全ながらも知つて學校を出た人間が幾人居るだらうか。

小さい殼の中で而も同じ圖筒を何回轉して居ても、第二のカローザスは出ないとは大ゲサかも知れんが、そんな希望を持つ者はあながち僕一人でもない樣にも思はれる。

○　○　○

世の中が複雜怪奇の樣に、吾が纎維界も之亦複雜怪奇である。ドイツのスカンヂナヴイヤ、ベルギー、オランダへの電撃戰が傳へられ、或はバルカンへの電撃戰の豫想が傳へられるに及んで、之に因る相場の動きに鵜の目鷹の目で神經を尖らせて居る者もあれば、ス・フの囂々たる非難の聲を一身に背負つたかの樣に十年一日の如く終日象牙の塔に立籠つて、纎維の伸長に因りて變化するペンの位置に全神經を集中して居る人間も居るだらう、第一に囂々たるス・フ非難の聲それ自身が複雜極りなきものであるし、石炭がない、パルプがない、魚の纎維、豆の纎維、更に石炭の纎維、岩石、硝子、海藻の纎維、ATC、世の中には絲にならないものは先づないと思はれる位絲が氾濫して居る。海のない港ではなくして絲のある港みた樣に――。之を複雜怪奇と云はずして何んだらう一應は誰でも思ふ。

ともあれ、所謂ス・フに對する惡評は覆ふべき術もない現象である。然し、ス・フも處理に因つては綿、或は毛に劣らざる程の强いものも出來ると思はれるし第一にス・フの製造から紡織への一貫作業之に加ふるに商人、之等のものゝ良心的の行動は相當にス・フの品質向上にあづかつて力あるものがあるんだと力んで見ても所詮はス・フ製造技術者の辯解じみた泣言としか解釋されないであらう。とまれ斯くの如きは別として、少くとも人造纎維に關係を有つ者は、大事な御得意樣に、水にぬれても弱くならない樣な强いス・フを作つてやらなかつたら相濟まんと、日夜それに頭を痛めて居るのはいつはらざる事實ですよ。

母校ニユース

依田課長母堂逝去

依田庶務兼會計課長依田啓藏氏母堂氏（八十八歳）には久しく御病氣の處藥石效無く五月七日逝去された。誠に御氣の毒で謹んで御冥福を祈る次第である。

早川春信氏新任

新設纎維化學科の會計事務其他事務を執る雇員に早川春信氏が五月十一日付新任された。

阿久澤清氏三男逝去

本校囑托阿久澤清氏の三男宏松氏（十六歳）は五月十七日急病にて應急の手當も效無く他界された。同氏には誠にお氣の毒で謹んで弔意を表する次第である。

劍道部關東高農蠶劍道大會に善戰す

關東高農蠶劍道大會は五月十九日千葉高等園藝學校に於て開催されたが、吾が劍道部では五月十日より合宿、猛練習を續け十八日部長志賀助教授引卒し、必勝を期し出發したが次の成績にて惜しくも敗れた。然し乍ら選手一同は旺盛なる士氣と堂々たる技倆を以て終始善戰し、對校試合に於ては何れの學校にも敗れなかつたのであるが總點に於て僅か四點の差で長蛇を逸したのは無念さ又格別であらう即ち戰續左の如し。

本校　6―4　宇都宮高農
全　6―4　東京高蠶
全　6―4　千葉高園
全　6―4　東京水產
全　6―4　東京農教
全　5―5　東京高農

個人成績

小池恭正君	（蠶一）	五勝
高橋通君	（蠶三）	三勝
片山文一君	（蠶二）	三勝
安岡美登君	（絲三）	五勝
宮下力君	（紡選二）	四勝
福田英彦君	（蠶二）	四勝
二宮正三君	（蠶三）	三勝
龍竹璋夫君	（織一）	三勝
外村吉高君	（蠶三）	三勝
松田得二君	（蠶三）	二勝

總成績

	高農	高蠶	宇農	千葉	上田	農教	水產
高農	—	4	4	2	5	2	4
高蠶	6	—	4	7	6	6	6
宇農	6	6	—	4	6	4	3
千葉	8	3	6	—	6	2	6
上田	5	4	4	4	—	4	4
農教	8	4	6	8	6	—	5
水產	6	4	7	4	6	5	—
合計	39	25	31	29	35	23	28
順位	1	6	3	4	2	7	5

青少年學徒に賜りたる勅語の御下賜記念式

五月二十二日の青少年學徒に賜りたる勅語の御下賜一週年記念日には全校職員生徒一同は午前八時校庭に集合整列、國旗揭揚、國歌合唱、宮城遙拜、皇軍武運長久祈願默禱をなしたる後、校長青少年學徒に賜りたる御勅語を奉讀、一同感激聖旨に添ひ奉らん事を誓ひ、校長の閲兵、各學年別の中隊分列式が行はれて意義深い記念式を終つた。

校外實習生豫防注射

已に製絲科三年生は出發したが本月末からも校外實習に出發する各科二年生の全員は五月廿二日校醫に依つてチブス豫防注射を行つた。

音樂部長決定

校友會では蠶に音樂部を新設したが、其の部長に佐藤春太郎敎授が五月二十五日會長より委囑された。健實な目覺しい發展を希む次第である。

學生の簡閱點呼

學生中にて本年の簡閱點呼該當者である宮田章君（絲三）、富部豊君（蠶三）の二名は五月二十六日配屬將校の高木大佐に依つて簡閱點呼を執行され成續良好であつた。

校長、野口敎授の視察報告會

曩に三週間の日程にて滿洲視察をされた井上校長、並に四十日間の日程にて中北支、滿洲を視察された野口新太郎敎授の視察報告講演會が六月一日の興亜奉公日の式後講堂に於て催され、大陸產業の經濟的政策、現狀、又民情等に就いて大いに啓發される所があつた。

石川金太郎編（最新刊）

日本蠶絲學文獻集

四六判洋裝函入・六號橫組一〇〇〇頁　定價六円八十錢　送料三十三錢

本書は一六七六年から一九三七年に至る我が國蠶絲學關係の諸々の文獻を剩すところなく蒐集載錄したもので「桑」「蠶」「製絲」「蠶絲化學」「書籍」に部類をわけ、無慮二萬に及ぶ文獻の著者名、研究題目、發表年、發表刊行物の名稱、その號數等を記載し、懇切な索引と相俟つて一目瞭然と編輯したもので過去四世紀に跨るわが國蠶絲學の全貌を鳥瞰するに足ると共に、斯界の研究に無限の光明を點する唯一の資料として特筆すべき勞作である。著者による先の文獻目錄は絕版既に久しく、斯界の翹望切なるに對へて爾來本書の完成に心血を注がれたもので、その努力と功は本書の上に高く評價されずにをかれないであらう。切に大方の御淸鑑を待つ。

埼玉縣蠶業試驗場長
野中幸兵衛著
養蠶
實用農藝全書（五）
價一・二〇　送料一五

養蠶の經營、蠶種、春蠶の飼育、夏秋蠶の飼育、產繭の規格統一、上簇、蠶病豫防、蠶室蠶具の消毒等に亘り詳細解說された斯界の名版である。

埼玉縣蠶試技師
岡部康之著
桑樹栽培
實用農藝全書（六）
價一・二〇　送料一五

品種、採苗、栽植、仕立方收穫、施肥、管理、障害、經營、遺利等に亘つて養蠶と聯關し桑樹の合理的栽培につき著者の長い研究体驗を傾注して詳述された懇切無比の好著である。

明石弘著　近代蠶絲業發達史　定價五・五〇　送料三三
遠藤保太郎著　桑樹實驗法　定價一・二五　送料一四
加納銳著　蠶種製造實務要覽　定價一・二五　送料六
高瀨軍治著　箱飼養蠶（增補一齡一回給桑育の箱飼）　定價・六〇　送料六
福田惠治著　實驗簡易活桑育蠶法　定價一・五〇　送料一四
金崎眞英著　上簇改良の理論と實際　定價一・五〇　送料一四
佐藤利一著　蠶の敗血症並に一般軟化病の性質及び豫防法　定價三・八〇　送料三三
荻原淸治著　煮繭論　定價三・〇〇　送料二一

東京市神田區錦町一
振替東京一三一九〇
明文堂
（出版圖書目錄一申込次第進呈）

御挨拶

會員各位益々御淸適に被爲在奉大賀候[illegible]扨て私儀本月四日に一先づ鄕里群馬縣の生地に歸住仕り候間不取敢御報告申上候

住宅は各位の甚大なる御厚意に浴したる記念の建物に有之、小生にとりては永久に忘るゝこと能はざる感謝の結晶に御座候、單に小生のみならず子孫に至るまで御厚恩に浴する次第に御座候、茲に先以て滿腔の謝意を奉表候

建物の坪數は延べ七十五坪にして八室を有し、間取り等は相當に便利に出來上り候、是非御來遊被下度御待ち申上候

四日上田出發の際には多數の御見送りを辱ふし無事午後二時過ぎに澁川驛に安着、村人、舊友の多數の御出迎へを被り、一同徒歩鎭守の社頭に集合し、歸村の報告をなし一同拙宅まで御送り込み被下此處で挨拶を交換して一先づ一同と別れ、それより村人一同に輕少ながら歸村の挨拶の品を贈呈し村人全體から歡迎會の宴席に夫婦共招待され、次に小生より又幹部數十名を御招き申上け、漸く昨十日に墓參をなし地下の父母の靈に對し明治二十一年出鄕の際の約束通り歸村致したる報告を申上け、地下の兩親も定めて莞爾として喜ばれた事と思ひ始めて肩の輕くなりたる樣の感を覺え申候

未だ長野縣に殘したる仕事も澤山有之候に付時々上田に參り長野に往復し、屢々拜眉の機會もあるべしと被存候、又地方に散在せる會員諸君にも頻繁に御目にかゝらること存じ候得共兎に角人生の一段落として茲に御禮旁々御報告の御挨拶申上候、今後共何卒益々御厚情を被り度奉懇願候

終に會員各位の愈々御健康と御榮進とを御祈申候

昭和十五年五月十一日

針塚長太郎

千曲會員各位

今春卒業生に告ぐ

本年の卒業生中昨年秋實施致しました第一回体力章檢定各級合格者に近く体力章を厚生省より下附されることになりましたから現住所記入の封筒を當課宛至急御送附下さる樣願ひます。

六月八日　學生課

戰地通信

阿形一三氏より

こちらも大分暖かくなつてもう蚊が出て來まして蚊帳がなくては仲々ねられぬ程です。マラリヤが亦々出て來る時季です。錢塘江作戰も自分等は切上げて〇〇日歸つて參りました。此處の戰鬪は本當に度々命を取られさうになりました。三度も將校斥候に出て三度共敵の重圍におちいり、からうじて任務を全うした樣な事もあり、一度は突擊の際チェッコ銃座に足を縛られて居た敵兵がモーゼル拳銃を亂射し、小生の鐵カブトにカン〳〵と二發も當りましたが之亦一命を得て、銃の床尾板でチェッコ射手をたゝき殺しました。一度はクリーク（五、六米位深くありました）を渡れなくて夜を待ち、斥候として三十米位の巾を銃を脊負つて對岸に着き、敵塹壕をモサ〳〵と這ひ敵歩哨の誰何（誰何には全くおどろきました）を受け、歸り途とう〳〵五十米ばかりのトーチカからチェッコをあびせられ快々的歸つて來た樣な事もありました。今かうして中隊に歸へつて見るとその時の樣子が目のあたり思ひ出されて來ます。敵とても馬鹿になりません。一度占據した陣地を夜を待つて三回四回と實に執拗な反擊をくりかへしてオチ〳〵と寢られません。〇〇の戰鬪では遂に自分の父とも尊ぶ八卷隊長殿を失ひ、分隊長を失ひ、戰友〇名を失つて弔合戰を〇〇てやりました。手榴彈戰もやりました。銃劍で突き合ひもやりました。全く地獄そのものです。柳生流の奧儀「切り結ぶ太刀の下こそ地獄なれ、身を捨てゝこそ浮ぶ瀨もあれ」と云ふ文句が今更の樣に思はれました。しかし對岸の敵は南下したとは云ふもののまだ〳〵大部分は山中に逃入しており油斷出來ません。

（三月十日）（遠藤先生宛）

本會記事

本會日誌

五月十一日　久芳大三氏名譽の戰病死を遂げらる、電報にて弔意を表す

五月十五日　本年度會費納入の件に付依賴狀發送す

五月十六日　鹿兒島縣立鹿屋農學校在勤の淸水淸氏逝去せらる、弔電を發す

五月十七日　齋藤利雄氏江蘇省銅山縣に於て名譽の戰死を遂げらる、弔電を發す

五月十八日　井上校長滿洲より野口理事滿支より歸省に付上田驛にて出迎へす

支那事情座談會を開く

蠶絲業、織維工業を視察された野口理事及生絲の國社主錐猪坂直一氏に臨席を願つて、校內及市內同窓生有志で兩氏より支那事情を聽く座談會を六月七日午後四時より千曲會館に開いた。兩氏には非常に熱心に各方面に亙つて御話し下され、啓發される所大であつた。

針塚長太郎先生謝恩記念資金受領報告（第廿四回）（六月五日現在）

金貳拾圓也　宇田虎一郎

金貳拾圓也　小山田道男

金五圓也　荻原行雄

右合計金四拾五圓也

累計金壹萬〇五百參拾六圓也

內田先生記念品贈呈資金追加分

金貳圓也　荻原行雄

會費領收（六月五日現在）

昭和十五年度會費金四圓也

金崎眞英（蠶九）　古川俊之（蠶十）　佐藤義助（蠶十一）　中島茂（蠶十一）　川島熊太郎（蠶十二）　丸山十吉（蠶十二）　內川勇（蠶十三）　金子幸一（蠶十三）　宮川繁治（蠶十三）　中島角太郎（蠶十四）　菱田政二（蠶廿三）　山崎背銤（絲十九）　滿澤佐俊（絲廿三）　伊藤正義（紡十九）

中村由枝（蠶一〇）　米田俊雄（蠶十）　淸水術敏（蠶十一）　水城孝勇（蠶十一）　北島正生（蠶十二）　安川寬（蠶十二）　內田訓之亮（蠶十三）　野澤司馬作（蠶十三）　佐村和夫（蠶十四）　古越光明（蠶十四）　瀧澤七朗（蠶廿三）　益淵誠正（絲廿二）　飯島貞雄（紡一）

昭和十四年度會納金四圓也

原淸志（蠶九）　西川正夫（蠶廿六）

猪瀨親二（蠶十一）　益淵誠正（絲廿一）

終身會費完納者

橫內豊彥（絲廿三）　原淸志（蠶九）

高橋卓爾（紡十七）　原田稱龜（蠶九）

入會金納入者

完納者　宮坂三郎（絲廿三）　伊藤正義（紡十九）

金五圓也　小林茂（蠶廿六）　高橋卓爾（紡十七）

昭和十三年度準會費金八拾錢也

田中てる子（舊教）　大瀧廣子（教六）

中條八千代（教五）

昭和十四年度準會費

大槻まき（舊教）　田中てる子（舊教）　西澤やす（教一）　春原さと（教三）　藤田志津子（教三）　山崎みつ（教三）　中條八千代（教五）　藤田きみ子（教五）　峰村芳子（教五）　柳澤豊子（教五）　渡邊きよ（教五）　淸水敏江（教六）　中澤澄子（教六）　片山幸（教七）

川上連（舊教）　柳澤みや（舊教）　玉井光子（教二）　西原藤（教三）　深町いつ（教三）　石川藏（教五）　深町てる（教五）　保科孝（教五）　柳澤ときわ（教五）　山寺孝（教五）　大瀧廣子（教六）　白井むつ（教六）　中村みつ子（教六）　西澤正枝（教七）

昭和十五年度準會費

大槻まき（舊教）　柳澤みや（舊教）　近藤たけ（教二）　春原さと（教三）　西原藤（教三）　藤田志津子（教三）　石川藏（教五）　藤田きみ子（教五）　柳澤ときわ（教五）　山寺孝（教五）　淸水敏江（教六）　中澤澄子（教六）　片山幸（教七）　上原すゞ子（教八）　村尾はつ江（教八）　橫澤時子（教八）

川上連（舊教）　西澤やす（教一）　玉井光子（教二）　關あぐり（教三）　深町いつ（教三）　山崎みつ（教三）　深町てる（教五）　峰村芳子（教五）　柳澤豊子（教五）　渡邊きよ（教五）　白井むつ（教六）　中村むつ子（教六）　西澤正枝（教七）　小泉ムラ（教八）　山邊律子（教八）　田村二三子（教八）

昭和十六年度準會費

近藤たけ（教二）

關あぐり（教三）

準會費領收（女子學友會取扱分）

昭和十四年度分

伊藤はる

昭和十五年度分

磯村敏子　柳澤たけじ

鹿澤クニ　宮崎美惠子

赤岡綾子　佐藤澄子

昭和十四、十五年度分

小林みよ　中塚ミツ子　小宮山順　宮崎久惠　柴田繁子

田中きみ子　上條理　榊原弘子　土屋道子　倉重ウメノ

仲藤潮　龜井俊子　飯森としゑ　金子葉子　關純子

准會員諸姉ニ急告

千曲會准會費ヲ先月末日迄ニ未納ノ諸姉ハ左記ニ依リ六月三十日迄ニ御納付相成度右期限迄ニ納付無之場合ハ集金郵便ヲ以テ四ケ年分金參圓貳拾錢ヲ七月十日頃迄ニ取立申ス可ク候間御諒承被下度候

記

一、拂込先

上田蠶絲專門學校千曲會

振替口座番號長野六二四三番

或ハ同校製絲部內女子學友會

振替口座番號長野九二七番

一、拂込金額

（イ）昭和十五年三月卒業者金八拾錢（昭和十五年度分）

（ロ）昭和十四年四月以前卒業者金壹圓六拾錢（全十四、十五年度二ケ年分）

敍任辭令

現職員之部

勳七等功七級　和田主計

敍從七位（十四年十二月二十八日）

正七位　行元自忍

敍從六位（一月十五日）

舊職員之部

公立高等女學校長　松岡重三郎

年功加俸年額百九拾貳圓下賜（三月三十一日）

公立實業學校教諭　山田修一

四級俸下賜（五月九日）

卒業生之部

從七位　小野修二

敍正七位（十四年十二月二十八日）

地方農林技師　金兒文夫

三重縣農林技師ニ補ス、九級俸下賜（五月七日）

朝鮮公立實業學校長　禰谷朝太郎

兼朝鮮公立實業學校教諭

免本官專任教諭（五月八日）

從六位　波多野千里

敍正六位（一月十五日）

地方農林技師　三好彌市

十級俸下賜（五月二十日）

從七位　太田愼一郎

敍正七位（一月十五日）

公立實業學校教諭　岩瀨義夫

七級俸（當分千六百貳拾圓）下賜（三月三十一日）

正七位　三好彌市

敍從六位

吉田隆雄

敍正八位（以上二月一日）

正六位　伊藤勢龜

勳六等　宮入誠一

正六位　大塚重藏

敍從五位

從六位　小笠原振一

敍正六位（以上二月十五日）

地方農林技師　中澤薰

九級俸下賜（三月四日）

公立實業學校教諭　五島眞喜太

年功加俸年額金百九拾貳圓下賜（十四年九月二十九日）

同　深谷正一

加俸年額四拾八圓下賜（五月十四日）

正六位　田附卯一郎

敍勳六等授瑞寶章（五月十七日）

岩手縣農林技手

陸軍步兵少尉正八位　竹內善吾

地方農林技師ニ任ス、高等官七等待遇

岩手縣農林技師ニ補ス（五月二十九日）

京都帝國大學助教授　西山市三

本俸七級俸下賜（五月三十一日）

訃報

齋藤利雄氏戰死

宮城縣立柴田農林學校に勤務中の齋藤利雄氏（蠶二一）は昨年〇月應召、北支に轉戰中去る五月三日不幸にも徐州附近銅山縣北方の敵攻擊に名譽の戰死を遂げられた旨實父（山形縣西置賜郡豊田村今泉）齋藤利七氏より倉澤教授宛に知らせがあつた。謹んで御冥福を祈る次第である。

弔慰金募集

故伊藤友次郎氏（紡二）
故鈴木鐵次郎氏（絲四）
故植村滿義氏（蠶廿四）
故齋藤修一氏（蠶廿四）
故久芳大三氏（紡十六）
故清水清氏（蠶九）
故齋藤利雄氏（蠶廿一）

以上七氏に對し弔慰金を募集致します。

故伊藤氏、故鈴木氏、故植村氏は六月末日、故齋藤修一氏、故久芳氏、故清水氏、故齋藤利雄氏は八月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ樣振替口座東京四三三四一番へ各故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。

昭和十五年六月　千曲會

死亡會員遺族よりの禮狀

本會に對し左記各遺族より弔電に對する禮狀があつた。

五月十四日
故齋藤修一氏　父　齋藤長藏
故齋藤利雄氏　父　齋藤利七

弔慰金報告（六月五日現在）

故井田英夫氏弔慰金
金貳圓也　荻原　行雄
　　　　　山本金之助
右合計金四圓也
累計金拾七圓五拾錢也

故伊藤友次氏弔慰金
金五圓也　小坂田　亮
金參圓也　飯島　貞雄
金貳圓也　千曲會
右合計金拾圓也
累計金拾貳圓也
金五圓也　河西　尙一
　　　　　野口新太郎

故鈴木鐵次郎氏弔慰金
金五圓也　小坂田　亮
　　　　　長見　公祐
右合計金拾圓也
累計金五拾貳圓也

故植村滿義氏弔慰金
金壹圓也　中島　俊秋
累計金五圓也

故齋藤利雄氏弔慰金（同級生ハ別ニ發表）
金參圓也　千曲會
金壹圓也　中島　俊秋
右合計金四圓也

故齋藤修一氏弔慰金
金貳圓也　千曲會
金壹圓也　中島　俊秋
右合計金參圓也

久芳君を憶ふ

福島　虎

五月十日下宿へ歸つて見ると下宿のおばさんが待つてゐて『久芳さんが戰病死をされました』と告げられた。久芳君が死んだ。僕には信じられない。御尊父よりの死亡通知書を見せられた時にはしばし呆然として涙もなかつた。次に君の三年間の面影と、白衣につゝまれた君の姿が思ひ出された。

大陸に轉戰中病魔に侵されて、骨に皮がついてゐる位に細く瘦せて山形陸軍病院に於て療養中とは便りにて知つてゐたが、まさか死ぬとは思つてゐなかつた。

元氣で出征された姿を思ひ出しては死んだとは思はれず、何處からか姿を表はして來る樣に思はれて仕方がない。

想ひ起せば久芳君と僕の交渉はクラス中にて一番早く尙一番長かつた。

僕と君が初めて知り合つたのは、入學者宣誓式の時であつた。

久芳君が僕の前に現ばれて『僕を知つてゐるか』と突然言はれた時には思ひ出されなかつた。

君は僕より一年前入學し、病氣の爲休學した關係にて、僕の入學試驗には身體檢査の呼び出しを手傳つてゐた。其の時に話をしなかつたが僕を覺えてゐたのである。

宣誓式後急に親しくなり、式後直に總代の諸岡君と僕を下宿へ連れて行き、クラスの事に就てクラス會をやる事、アルバムを作る事等色々と話をした。

アイスクリームと菓子にて塩川に於て初めてのクラス會を開いたのも君の世話にて出來たのである。

君は旅行が好きにてクラス一番の旅通であつた。夏期工場實習の際等は誰々は何線に乘り何處まで切符を買へば良いと言つて吾々同級生の爲に非常に世話をした。

君は又運動家にして短距離が最も得意にて、運動會の對科競技には紡織科の爲に萬丈の氣を吐いた。野球、劍道、水泳も得意であつた。

卒業後直に一宮市外起の橋本毛織工場に就職したが十一月都合に依り退職して愛知縣毛織物檢査所一宮支所へ勤務した其から應召まで僕と同じ下宿にて同じ釜の飯を食つてゐた。

君は仲々の酒豪にて殊にビールが好きであつた。大きなジョッキ一杯を一息に飮んでゐたのを側で見てゐても本當に好きで飮んでゐる樣に見えた。

君は眞面目であり責任感か强く仕事に熱心であつた。應召を受けた時には八月末であつたが、八月中勤めて自分の責任を果したいと言つて三十一日まで勤めた事等は君の性質をよく表はしてゐると思ふ。

僕はもう之以上何にも書けない。

久芳君、君遂に逝く。

此の世では久芳君と會へなくなつた。

私は靜かに久芳君の御冥福を祈る。

齋藤利雄氏戰死當時の模樣

（本記事は別戰齋藤和雄氏戰死當時の詳細なる模樣で當時中隊長代理として指揮を執られた人から實家に齋られたのを、實父齋藤利七氏より故利雄氏が母校卒業後三年間倉澤教授の許に副手を勤められた昵懇の間柄から、同教授に報ぜられたもので、其の從容とした立派なる最後には頭の下るのを覺ゆるのである。　編輯室）

四月廿二日から開封が敵の奪還企圖の爲相當の激しい襲擊を受けた時其敵を擊壞すべく廿三日午後突然命令をうけて中隊は出動致しました。廿四日の午後開封につきましてから五月一日まで文字通り不眠不休の戰鬪追擊を行ひ三日間と云ふものは壕の中に睡り、飯に鹽や粉醬油をかけて喰ふ有樣でしたが、所期の目的を達し新黃河の線から他部隊と交代して歸へる途中列車中で又命令により銅山縣の北方地區に蟠居する敵を攻擊致しました當時小官は中隊長代理として中隊を指揮して居りましたが、五月三日十時腰灘王（ヨウランワン）と云ふ敵の本據地の南方壹千五百米位の處に延々と連る高さ四米位の堤防上に陣地を構築してゐる約三千の敵と遭遇し、攻擊を始めました。當時こちらには砲兵こそありましたが僅か〇〇名足らずの私の指揮する〇〇〇〇と右の方に工兵と他部隊の歩兵が〇〇〇〇名居る丈でした。其の時の敵の彈の猛烈だつた事は一瞬の間に天地がキーンといふやうな音を超越したものに支配されてしまつたことで御想像下さい。器具を持つてゐる兵、伏せた儘もたぬ兵、各々靴の踵に全身の力をこめて砂土を掘り、少し宛然身をかくすよすがにすると共に攻擊隊形を整へた狀態でした。當時中隊から大隊本部に傳令として出て居られた利雄殿は使命を果し大隊本部から再びこの彈雨の中を戾られる途中、姿勢が大きくなりましたので敵の狙擊彈の集中目標となつたのであります。午前十時三十分小官等の後方二百米の地點で遂ひガックリと前のめりに伏されたので衞生兵が飛んで行きました。そしたらムクリと起きなほり、側の麥畑の中に御移行してゆかれたのでおかしいなと思つて居りました處、其處で圖嚢から通信紙を引出し、鉛筆で三、四枚達筆に遺言狀を認められたのであります。これは中隊に送つて大切に保管し、遺留品と共に御屆する樣手配してありますから爲念申添へて置きます。彈は咽喉部（少し左肩寄り）から入つた盲貫創でありましたから無論致命傷で普通なら其儘倒れてしまふ傷でした。然るに普段から氣、心共にしつかりして居られた利雄殿は、其痛手に一時失神されたるにも係らず又覺醒さるゝと同時に、側の麥畑に移り適確なる字體に少しの崩れもみせず遺言をかゝれた事は永く我中隊の戰例となり尊い訓育を遺されたもので死して尙國家に御奉公なされるものと存じます。三、四枚書き終らるゝと共に意識不明となり其儘擔架で軍醫附添の上、自動車に收容されましたが其夜十二時近く遂に醍めぬ儘息を引きとられました。誠に痛恨に堪へません。戰鬪は其間も猛烈に續けられ午後三時半漸く突擊して之を占領しました。敵の殘して行つた屍体丈でも一五〇餘ありましたから戰傷の者は五、六百に達したものと考へられます。味方の損害も小隊長以下兵戰死四、負傷七を出しました。戰傷者を殘すことは實に遺憾でありましたが一切を軍醫殿に一任し小官等は其夜十二時過ぎまで追擊又追擊し夜襲を以て本據地を奪取しましたが利雄殿の御臨終にはつい立合ふことが出來ませんでした。御遺骸は戰友の手で火葬にしました。現在御遺骸は中隊に歸へつて大切に御祀りしてあります。利雄殿は遂雖の上に學職のある方でありましたので中隊でも事務室の方にばかり手傳はれて居りましたが出動の時は中隊全力あげて出ましたので利雄殿も編成に入られたものでありました。しかし尊い國家の柱石となられたいま、この輝かしい精神力の偉大さといふ事を吾々に遺してゆかれた事に對しては只々頭が下るばかりで、死して尙奉公一途をたどらるゝ利雄殿の靈に對しては戰友始め中隊一同途に冥福を御祈りするばかりであります。

戰死の場所　江蘇省銅山縣腰灘王（ヨウランワン）
時間　五月三日午後十一時

齋藤君を惜しむ

荒木　喬

五月廿日月曜日出勤して一葉の端書を受取り、何氣なく見馴れない文字を一瞥すると途端に異樣な冷い感が頭の中に閃き一瞬身が固くなるのを覺えた。幾度も幾度も讀み返しては、まさかと考へ如何に否定しても燒つても齋藤君戰死の報に間違はない。それは御尊父樣と奧樣との連名にて——

『徐州西北方地區の大討伐戰に參加し五月三日午後十時四十五分江蘇省銅山縣腰灘王に於て前胸部貫通銃創を受け戰死致候旨部隊長殿よりの公報に接し云々』とあり……………

只々呆然自失、無言の中緊々とこみ上げて來る悲憤と無念無情の淚で胸は一杯となりどうしても抑へ切れない。嗚呼君は若き三十の生命を興亞の建設に捧げ、あの元氣なあの純眞な意氣にたぎる君の血潮もて大陸の土を眞紅に染め散華したのである。「皇紀二千六百年の初夏五月の三日」此の日こそ君の肉體は永遠に此の世を消え興亞の礎石としてその遺勳永劫に輝き永久に護國の鬼と化したのである。

當時の詳報に接しない爲彼の偉大なる最後は判明しないが——日頃の燃ゆるが如き君の勇氣と信念とより推すとき——それは時刻の更け行く夜の殲滅戰に於て實に氣軀に部隊の先頭に立ち敢然と突擊に出であまり進み過ぎた爲不幸敵彈に殉れたのではなからうか？　そしてきつと立派に大聲　陛下の萬歲を唱へ日本男子の本懷に笑みつゝと切れた模樣が想像されて來る。誠に惜しい事をした。

思へば去年の秋、その日は朝から霖雨がそぼ降つてゐた。愈々彼の壯途に際し「オホミヤニテアヒタシ」との電報に依り正午大宮に行く豫定の處俄に豫定變更品川經由との再び打電ありて福地、入佐の兩君と共に馳けつけ多勢な勇士と見送人の中からやつと君の元氣な兵隊姿を探すことの出來たその嬉しさ。オヽ齋藤君と呼び乍ら固く握手を交はした瞬間、何にも言へない。しつかりやつて來て呉れ君の凱旋を待つてゐるよ、その時は一つゆつくり一夜を語り明かして飲まうぢやないか。君の武運長久を祈ると約二十分間降りそゝぐ秋雨の中で別れたのが最後にならうとは……。あゝ、今もハツキリその時の情景が瞼の中に往來する。

惟へば昭和六年春、我々がイガ栗坊主で大きな抱負と希望に充ちた將來の夢を描いて千曲河畔の學舍に集つた時、怜悧な小ざかしい學友が居て、何だか注目されて仕方がなかつた。彼こそ何か偉大なる仕事をなす人であると最初の印象があつた。果して君は最初からクラスの輿論を導きよくリードして學科に實習に又クラスの會合に常に懸命信念に從つて進んだ。だからクラスは皆よく君を信頼し與望を一身に擔つた。否クラス以外の人も彼と言葉を交はした事さへある人なら君に直ちに親交を求める程であり、故に知己も多く實に若き人格者であり明朗なる性格の持主であつた。

教室に於ける眞劍なる態度の君は、圃場實習に在りては卒先難局を引き受け、學帽を眼深に被り大聲でカラ／＼と笑ひ乍ら天地返しに施肥溝掘りに樂しく時間を過し、實驗室に於てはカヂリ附く様に熱心に顯微鏡をのぞいては洵に器用にナーパス・システムを描き、或はプレパラトを作つた。太郎山颪が校庭のポプラの葉をヒラ／＼と吹き揚がらせるとき運動會は廻り來て、應援の練習に又色々の世話に實に寢食を忘れては東奔西走し、よく齋藤君はあんなにマメに出來るなーと人が言つた。

君は一面美を好み雄壯神秘なる信州の自然を愛し常に君の部屋には眼のさめる様な山の寫眞が掲げてあり、常に或る花が一輪机上に飾られてあつた。

又アルバム委員としては高野君と共に卒先して重責を引き受けよくその煩瑣な仕事を寸分の苦もなく完成し、構想の誠に藝術的にして然かも驚く程立派なものを極めて定値に作つて呉れ三とせの思ひ出を織り込み、此の縮刷版を見る時常に自分は君に感謝せずにはおられない。

折にふれてよく我々も共に一六馬場町とか三八原町とかの夜店を散歩し、君は上田娘の徽に入り細を穿つた特徴を評價し騒いで廻つたものだ。それだけ君の心にはゆとりがありユーモラスな處が澤山あつた。君こそ眞に三ケ年間の學窓生活を最も有意義に最も面白く送つた第一人者であらう。

君は書が上手で文章もよくし、クラス時報などに面白く彼の作品を讀むことが出來た。君はお宮の前の關三商店に下宿しては小父さんや小母さんに親にも劣らない尊敬と愛とを以て接した爲、又小父さんも眞の子供同様に可愛がり、君の就職先の大河原迄態々遊びに行つては一週間も君の家に滞在して來たと云つては涙を流して嬉び僕にその話をして呉れた。之など誰が聞いても美しい話であり君の暖かき心の一端を示すものである。あゝ茲にも小父さんや小母さんは實子同様君の死を悲しんでゐることだらう。

君は昭和九年卒業後倉澤先生のよき助手として圃場に三年間働きそれから現在の柴田農學校に先生となつては益々校長の信望も厚く生徒の訓育にも格別の風評をきく。茲にも亦若き生徒の齊しき涙の追悼があることだらう。

其の他君のユーモアから來る失敗談、彼の手柄話等々君の思出は枚擧に暇がない。又自分の拙い筆では君の思出の君の性格の一片も表現出來ない。

君は長男であり郷里山形縣今泉には兩親と若い奥様が君の凱旋を如何ばかり待ち侘びて居られたであらうに今俄に君の訃報に眞に御愁傷の極みであらうと思ふだけでも涙だ。

然し君の戰死こそ決して無意ではなく大日本帝國大躍進のため大きな礎石となつた。君の英靈こそ靖國の御社深く鎭まり百萬年の後迄も神國を加護して呉れるだらう。

謹みて哀悼の意を表し君の冥福を祈りながら――。

謹しみて齋藤利雄君の英靈に捧ぐ

山岸恒一

齋藤君の御嚴父より利雄儀徐州西北方地區の大討伐に參加いたし五月三日午後十時四十五分江蘇省銅山縣腰裏王に於て前胸部貫通銃創を受け戰死致し候旨隊長殿よりの公報に接し申候右不取敢御通知申上候との御書面を頂だきしは五月二十日午前八時であつた。一讀したゞ愕然として一時はその眞否をさえ疑ひしもその現實なるに胸ふさがり、あまりに殘酷なる軍神の命令に悲憤をのみ感ずるのであつた。

皇國のため軍人として一旦戰場に赴きし以上は一死以て奉公の忠誠を全ふすべきは素より男子の本願ではあるが、一面華々しく凱旋し爐邊に功名を語りたきは人情の常にして吾等も蔭ながらそれを希ひ居りしに今なんぞ君戰死の報に接するとは――。

「ショウシユウサルアスタツ」との電報に接し急ぎ大河原に齋藤君夫妻を詰れしは忘れもせぬ昨年の盛夏八月十日の夕刻であつた。君は丁度挨拶のため外出中にて奥様が訪客の接待に忙殺されて居られた。暫くして君の高聲が外に聞え歸つて來たなと思ふ間もなく玄關より『やあ遠い所をよく來て呉れたな、僕もとう／＼應召したよ』と例の元氣な調子で入つて來た。『お芽出度う、體に注意して大ひにやつて來て呉れ給へ』これが二人の最初の挨拶であつた。應召は豫て覺悟はして居りしが現在その身になつて見た時の氣分は一寸言葉には表現できぬものがあると云ひ、さすがに奉職先の學校のことや郷里の御家族のことや奥様のことなどにつき色々と考へて居る君であつた。

元氣に語り勵まし會ひ一夜を共に過せしがこれが最後になるとは神ならぬ身の知る術もなく又の會ふ日を樂しみに翌朝別れたのであつた。

人の爲なれば我身を忘れて奔走する君なりし故皇國の重大事に處し如何ばかり壯烈なる最後を遂げられしことか。聞くところによれば部隊連絡の用務中麥畑にて敵彈を胸部に受け人事不省に陷り戰友の聲にて意識をとりもどし郷里と奉職先の柴田農林學校宛二通の遺書をしたゝめ記し終ると同時に息を引き取り尙その記せし數行の筆跡も中々に達筆なりしとか。

君を知るものその平素と思ひ合せてたゞ頭の下るのを禁じ得ないであらう。

されどその餘りに早きを思ふ時悲憤あるのみである。最も敬愛せし齋藤君は遂に永遠に歸らぬのだ。併し君が皇國のため盡せし功績は永久に滅することなく東洋永遠の平和確立の人柱として九段の靖國神社に輝くのだ。

人生朝露の如くして時至れば徒らに消え去るに比すれば君は絶大なる御奉公の聖地に斃れしものにて日本男子としてこれに勝る榮譽とて無く又御遺族様の譽れこれより高きものも無きものと信ずる。

齋藤君の學生時代の思出の數ある中最初に目に浮ぶは入學當時の君が姿である和服を着け數册のノートを抱え教室の入口にて禮をする態度は如何にも東北人らしき親しみを覺えさせたものだ。そして又常にクラスのリーダー格として世話役として吾々の爲常に奔走をしてくれる齋藤君であつた。卒業後君は學校に殘り同級生の連絡に又二一會誌の發行にと總ゆる努力を續けて呉れた。其の後柴田農林學校に教鞭をとる身となりしが日頃の人格は直ちに生徒の敬愛するところとなり評判は極めて良好でありしことを蔭ながら聞き同級生の一人として吾がごとの様に嬉しく思ひ又誇ともして居た。

僕が昭和十一年九月九日宮城縣に奉職して以來同級生中最も近くに居りし關係で屢々會ふ機會を得た。學生時代もそうであつたが君は非常に映畵を好み僕の下宿迄誘ひに來ては二人で仙臺迄見に行つた。十二年の四月東京より入佐君が見え齋藤君と新野君とそれに僕と仙臺にて落合ひ一夜呑み明し翌朝齋藤君の家を入佐君と共に襲ひ一日厄介になりその時奥様も入られて寫した寫眞は最後の記念となつてしまつた。

君はまた小供の無いのを非常に淋しがつて居た。會ふ度に語り手紙でもよく書いてよこした。今にして思へば之が蟲の知らせとでも云ふのだらうか。

接すれば接する程親しみを增し過去を憶ひ現在の苦しみを分ち互に勵まし合ひ未來の希望を語ることの樂しみを大きな喜こびとして居たのに今は總べてが失なはれた。實に殘念で堪らぬ。まして御嚴父様はじめ御遺族様の御心如何ばかりか特に若くして未亡人となられし奥様の御心中を拜察する時涙のみ先にて御慰めの言葉もない。

興亞の聖業未だ半ばにして敵彈を受け而も泰然として死につきし時の君が心情を憶ふとき自ら頭が下りその貴き犠牲に對し只管感謝を捧げると共に護國の神として靖國の社殿深く神鎭まり永しえに皇國の榮えを守られんことを祈る。

こゝに敢て拙文を綴り謹みて君が英靈に捧げる次第である。

北支戰線の華！

齋藤修一少尉

秋山生

曇天低く垂れこめる五月八日朝、何時に變らず會社に出勤すると机上に母校小林講師からの封書、急に不吉の豫感、早速開封するに内容は最大の訃報、齋藤修一少尉の戰死の報せを鈴木正一郎兄（蠶二二）が詳細に記載し、小林兄經由にて知らしてくれる。只々啞然たるのみ、今の今迄此の悲報を聞くとは神ならぬ誰が思つた事であらう。自分の眼を疑ひ、手紙を疑ひ、間違であつてくれゝればと祈る一方から悲しみはひし／＼と沸き、齋藤君の思ひ出は走馬燈の如く腦裡を掠め呆然として爲す事を知らない。あの元氣で長身な彼。朗かで磊落な彼。噫、今は護國の鬼か、我誰に此の悲しみを訴ふべきか。戰場で幾多の戰友を眼前で失ひ、世の最大の悲慘を經驗した自分も此の訃報程驚愕落膽した事はあつたであらうか此の訃報を聞いた者は誰でも自分以上悲痛を味つた事であらう。あの人懷こい齋藤君の事故交際も廣く交る者は誰でも濃い印象のもとに盡きぬ思慕と愉快を味つて居るであらう。齋藤君の數々の思出話は他日に割愛し、軍隊からの通知を報じ英靈の冥福を祈る爲に敢へて拙文を書く次第である。

中隊長の通信

前略陣中略儀ながら齋藤君戰死當時の狀況をおしらせ致します。

部隊は潞安南方「陵川」及「澤州」附近の中央軍を攻擊する爲本月十八日警備地を出發二十日四時壺關を出發別紙要圖の進路を先づ稜川に迎へ前進しました。

二十日の夜味々齋（ミミサイ）附近にて敵の攻擊を受け夜中の十二時頃やつとその第一線を奪取しましたので吾々機關銃も第一線に追求第四中隊と一緒に山上に陣取つてをりました。ところが二十一日の午前一時頃約六十の敵が此の高地へ逆襲して盛んに手榴彈の雨を降らし又拳銃を打ちまくり一時は我軍も相當の苦戰に陷りました。此の時齋藤君は卒先先頭に立ち『退くな！』、『さがるな！』と大聲にて呼ばはりつゝ左手に拳銃をもち右手に軍刀を振りて大いに活躍して居りました。その中機關銃の彈丸がなくなつたので齋藤君は自分自身で銃側に彈丸を運ばんとした時敵の拳銃彈が左背部より心臟を貫き遂にど

つとその場にうち倒れ名譽の戰死を遂げられた次第です。戰死の場所は小生よりわづか數間位しか離れてをりませんでしたが夜間の事ではあり加へて各所にてちり〴〵の戰闘が起りその最初にかけより得ず小生が側に赴きしときはもう全く事ぎれて上向きになつたまゝ戰死してをられました。思へば齋藤君は去年學校卒業歸隊以來私共の中隊付將校として全く私を忘れて奮闘して下さいました。戰死したとは夢にも思はれません。又中隊長としても皆皆樣の大事な御子弟をむざ〳〵戰死せしめ何とも申しわけない次第でございます。只今齋藤君の遺骨も吾々部隊に迫及今私の居る部屋にお祀りして居ります。然し今にもあの元氣な姿で室の外から入つで來そうな氣がしてなりません齋藤君は本當に中隊の爲に御奮闘下さいましたがその御奮闘に對して何等報ゆろ事のなかつた小生は誠に心苦しく思はれて致し方ありません。討伐の爲警備地出發の數日前一緒に滋安で會食大ひに愉快でした。又出發前日も中隊幹部全員で會食をした時も齋藤君はまつ先に元氣よく歌などを唄つて一同大ひに愉快に時を過しました。あれが最後になるとは夢にも思ひませんでした。思ひ出は數限りなくつゞいて來ます。又一面より申せばすべて之天なり命なり、而して 陛下の御爲めの見事な齋藤君に恥ぢざる最後でした後に殘つた吾々は必ず齋藤君の靈を慰さむべく今後一層奮闘致します。

右取りとめなき事を雜然と書き連ね申譯ありません。何卒不悪御赦し下され度

草々

四月三十日

中隊長　大川　實
○
大隊長　渡邊　進
○
聯隊長　笠原　齋兵

尚鈴木兄より送付された四月二十七日附「酒田新聞」紙上には

陸川攻略の華
齋藤修一少尉
父も日露役で活躍

北支戰線陵川縣城攻略の華と散つた笠原部隊齋藤修一少尉は酒田市本町六丁目出身酒田中學から上田蠶絲專門學校を卒業昭和蠶業會社名古屋支所に勤務中應召幹部候補生の試驗にパス昨年二月陸軍豫備士官學校を卒業と同時に出征同十一月少尉に任官北支戰線で活躍中の青年將校であつた。在校中は劍道、蹴球の選手として鳴らし劍道は三段の腕前であつた。

遺族は父長藏（五九）母みなさん（五五）姉富美さん（二八）の三人暮し、父は海軍一等機關兵曹として日露戰役には軍神廣瀨中佐の部下として軍艦朝日に乘込み武勳をたて古强者で海と陸とに二代奉公した譽の一家。

姉富美さんは酒田高女から女子體育專門學校を卒業後群馬縣澁川高女教諭を勤めてゐたが弟の出征と同時に弟が歸るまで嫁がぬと頑張り親に孝養を盡してゐる父長藏氏は語る。

『姉の富美も嫁がずに頑張つたやうに生還は期し難いと覺悟してゐましたが昨日元氣な便りがあつたばかりなのに夢のやうです、出征以來滿一年では慾を云へばもう少し御奉公させたかつた』

○　○

終りに臨み二十六歲を最後とする兄の生涯は惜みても尙餘りあるが、業は千古不朽である。今後は永く護國の神として靖國の社奧深く神鎭まり御皇國を御守り下さる樣御祈りする次第である。

故齋藤修一少尉を想ふ

加藤沼二

我々が上田に入學したのは今から六年前の昭和九年である。入學の喜びを滿面にたゝへて上田に集つた。入學と共に我々は修己寮に入つた。齋藤君は二號室であつた。こゝで故人との交友が初つたのである。新入生の誰もが一度は經るあのホームシックを隣りの部屋なるが故に屡々遊びに來てまぎらして呉れたものだ。齋藤君は性質は極めて磊落であつた。鄕里山形の酒田中學時代は極めて暴れ者で硬派の巨頭を以て任じたとかよく話してゐたがあの雄大な體格を以てしては相當なものであると恐れをなした事もあつた然し上田時代は硬い傾きは微塵も殘つてゐなかつた。洗練された常識と溫良な雅量は能く人を容れたのである。齋藤君は劍道をよくした傍ら音樂を愛好した。音樂同好會の有數な一員としてあの長軀肥滿の爽々たる姿を演臺上に現はし來聽者の人氣を集めたものである。

專門學校の一年は夢の如く過ぎて我々は二年に進んだ。修己寮で一緒に暮した我々も各自思ひ〳〵の宿を求めて色々に分れた。その中で齋藤君始め當時の蠶製絲二年の一部は東寮に入つた。こゝで又齋藤君と同じ釜の飯を喰ふたのである寮時代のエピソートは限り無くあるが、その中で二學期の末頃であつたらうか或る日晝食を終へて寮のバルコニー（便所の屋根）へ出て暫しの憩ひを樂しんでゐた事がある。その時バルコニーから我々の眼に明きりと映つたものがある。曰く「山形縣貴族、齋藤修一」なる新しい標札が雄太々と書かれて部屋の入口に出されてゐたのである。これには一同大笑ひをしたのである。爾來故少尉を稱して貴族と申したのである。斯樣に君は磊落が過ぎ茶目氣があつて愉快であつた。かうして二年も過ぎ三年に進んだ。君は劍道部の選手兼マネージャーを務め傳統の劍道部の歷史に有終の美を殘して昭和十二年春四月母校を去つたのである。

卒業後は昭和產業株式會社蠶種部に入社され初めは兵庫縣淡路島に居られたのである。こゝで先輩に非常に認められ蠶種增殖その他の用務を帶び屢々沖繩に出張されたと聞いた。昭和十三年四月先輩の轉任と共に榮轉して昭和產業株式會社河田蠶種製造所へ移つて來た。その時當時蠶試支場に勤務してゐた小生を態々訪ねて呉れたのである。そして昔を語り將來を勵まし歡大いに盡して別れたのである。その樣に舊友に對する情は極めて厚く何時迄も變らない人爲であつた。

又君は責任感の非常に强い人物であつた。その事に就て次の樣な事がある。それは小生を訪ねて呉れた時の事である。隨分語つて遲くなつたのでそろ〳〵歸ろ時刻になつた。丁度その時、今朝先輩にたのまれた小學校の算術教師用の本が是非求め度いと云ひ出した。その本を持つて行かなければ僕は責任が果せない。君なんとかして呉れとの事である。そこで片田舍の一軒の本屋に行き漸く斯く云ふ目的の本を一冊みつけたのである。然しその一冊の本は小學校の先生の註文の品だと言明して本屋は容易に渡しさうになかつた。其處で余がとつさに氣轉をきかし齋藤君を其の町の新任○○訓導に奉つて漸く目的を達したのである。後で齒のゆるむ程笑ひくずれた。そうして昭和十三年初夏の一夜、あの田舍のプラットホームで元氣よく、又逢ほうぞ近い所へ來たから、加藤出掛けて來いよ、と手を振つて離れたのである。思へば之が齋藤君との最後の別離となつてしまつたのである。

その後程なく君は名譽の應召を受け鄕里山形聯隊に入隊されたのである。それから幹部候補生として仙臺豫備士官學校に入學された。そうして昭和十四年六月勇躍出征され滿洲より北支に轉戰され各所で勇名を轟かしたのである。其間小生は度々便りを受けて感激したのである。然るに本年四月二十一日何たる天命ぞ、聖戰中途にして我が親愛なる齋藤少尉は壯烈なる戰死を遂げられたのである。野戰に斃るゝは男子の本懷ならん、さは云へ思ひを御遺族に及ぼす時唯々唯々御愁傷の極みと存じ上げる次第である。

茲に故人の昔をしのび御英靈の安らけく瞑ぜらるゝ樣祈るものである。

會員動靜

（六月五日現在）

早川　春信	（現職）	（勤）本校纖維化學科（住）上田市前田町
岸野　潤一	（蠶五）	（勤）島根縣蠶業取締所松江支所長、兼、八束郡養蠶業組合技師
齋藤　菊雄	（蠶六）	（勤）横濱市中區北仲通五ノ五七帝蠶ビル內、大日本生絲販賣購買組合聯合會（住）横濱市港北區篠原町榎本谷一七五三（舊、福島支會）
清水　清	（蠶九）	昭和十五年五月九日病死（遺族）愛知縣寶飯郡赤坂町西組手一七、清水仲子
佐藤　重太郎	（蠶九）	（勤）沖繩縣島尻郡眞和志村字安里、鐘紡昭和產業沖繩蠶種製造所（舊、兵庫支會）
岸　善亮	（蠶九）	（勤）山形縣立鶴岡中學校（住）鶴岡市家中新町甲三（舊、北信支會）
中村　由枝	（蠶一〇）	（勤）從前通り（住）平壤府紋繍里三〇五番地
猪瀬　親二	（蠶一一）	（勤）栃木縣芳賀郡眞岡町、栃木縣立眞岡農學校（住）河內郡上三川町大字上三川
山形　新太郎	（蠶一二）	（勤）高崎市、群馬縣農會
武本　本治	（蠶一三）	（勤）從前通り（住）東京市中野區大和町三一八
松原　幸彌太	（蠶一四）	（勤）三重縣蠶業試驗場多氣支場
川上　與三郎	（蠶一五）	（勤）長野縣蠶業取締所池田支所、長野縣經濟部北安曇出張所
宮本　豐彥	（蠶一五）	（勤）京畿道富川郡素砂面、恩賜授產京畿道原蠶種製造所
今井　和人	（蠶一六）	（勤）甲府市、山形縣立農林學校（住）西山梨郡山城村
宮堀　俊雄	（蠶一七）	（勤）長野縣經濟部蠶絲課
上杉　慶次郎	（蠶一八）	（勤）埼玉縣廳蠶絲課（住）浦和市本太（舊、北信支會）
池內　眞吾	（蠶一九）	（勤）安東市滿鐵共同事務所氣附國立柞蠶種繭場（住）安東市大橋通り七丁目、村木洋行內
桐生　義文	（蠶一九）	（勤）奉天西岡部隊本部
齋藤　章	（蠶二〇）	（勤）滿洲國興安西省大板上省立大板上畜產學校（住）仝上（舊、越佐支會）
顯富　正廣	（蠶二〇）	（勤）滿洲國牡丹江省牡丹江市、牡丹江省公署殖產科內、鐘紡牡丹江駐在員（舊、北九州支會）
齋藤　利雄	（蠶二一）	昭和十五年五月三日戰死
平岡　英司	（蠶二一）	召集解除（勤）上海九江路五〇號三井銀行ビル二階、華中蠶絲株式會社
秋山　俊雄	（蠶二一）	（勤）德島縣蠶業取締所川島支場（麻植郡川島町）
稻葉　正一	（蠶二一）	（勤）東京市、輜重兵三聯隊二中隊一班
倉澤　恒夫	（蠶二一）	（勤）本校纖維化學科（住）上田市坂井田町（舊、神奈川支會）
水野　義男	（蠶二二）	（勤）福島縣信夫郡飯坂町、農林省蠶絲試驗場飯坂出張所（舊、東京支會）
韓　治鍊	（蠶二二）	西原廣ト改姓名
横山　良毅	（蠶二三）	（勤）長野縣小縣農學校（住）小縣郡縣村田中（舊、諏訪支會）
西川　晋	（蠶二三）	（勤）佐賀縣小城郡小城町、佐賀縣蠶業試驗場
森山　甫	（蠶二三）	（勤）新京南嶺中央師直訓練所（舊、北信支會）
內藤　康三	（蠶二五）	（勤）岡崎市明大寺町、岡崎市立商業學校
中島　俊秋	（蠶二五）	（勤）本校養蠶科圃場部
鈴木　彥佐	（蠶二六）	（勤）朝鮮羅南今田部隊
城口　俊明	（蠶二七）	（住）東京市杉並區高圓寺二ノ四四三、長谷川方
禰田　六郎	（蠶二七）	（勤）沼津市下河原町、郡是製絲蠶事所沼津支所
森本　彰	（蠶二七）	（勤）東京市麴町區大手町、農林省蠶絲局絲政課（住）東京市瀧野川區西ケ原五七三、熊谷方
河田　泰	（蠶二七）	京都帝大農學部農林化學科學生（住）京都市左京區北白河別當町七八、赤崎方
小湊　潔	（絲四）	（住）京都市上京區紫野上御所田町四六
三好　彌市	（絲八）	（勤）和歌山縣繭檢定所長兼和歌山縣經濟部農務課勤務 （住）和歌山市加納南島（舊、熊本支會）
山本奈良三郎	（絲一一）	（勤）和歌山市岡町、昭和紡績株式會社（住）和歌山市和歌浦町明光通り（舊、丹綾支會）

中岡　固	（絲一二）	昭和十五年六月七日死亡
岩田　正	（絲一二）	（勤）鹿兒島市原良町一五六六、片倉薩摩製絲鹿兒島工場（住）全上（舊、北九州支會）
桐原　達郎	（絲一八）	（勤）中支江蘇省無錫毛梓橋一二號、華中蠶絲股份有限公司無錫支店（舊、安筑支會）
本間　茂銳	（絲一九）	（勤）滿洲國經濟部工務司工業科（住）新京特別市金輝路第二代用官舍一七五號
林　秀門	（絲一九）	（勤）兵庫縣養父郡八鹿町、郡是製絲八鹿工場（舊、丹綾會）
依田　實	（絲二〇）	（勤）福井市、福井縣經濟部商工課
神崎　閑一	（絲二三）	九大農學部農藝化學科學生（住）福岡市外箱崎町二股瀨
赤尾　文顯	（絲二四）	（住）東京市板橋區板橋町九ノ一五九四
西原　美登	（絲二四）	（勤）橫須賀市、海軍航空技術廠飛行機部第五科（住）橫須賀市磯子區洲崎町一二五、山口七之助方
有賀　正治	（絲二五）	召集解除（勤）長野縣諏訪郡上諏訪町
小林　相模	（絲二五）	（勤）東京市京橋區京橋三ノ二片倉ビル、片倉製絲紡績株式會社絹製品部（住）東京市世田谷區池尻町三六九
佐藤　俊郎	（絲二六）	（勤）京都府綾部町、郡是製絲試驗工場
青木　茂美	（絲二六）	（勤）名古屋步兵六聯隊（通信先）愛知縣海部郡津島町大字津島筏場、青木三郎方
稅田　廣喜	（絲二七）	（勤）從前通り（住）三原市大黒町二〇八五、富田武夫方
野島　忠義	（絲二七）	（住）東京市澁谷區代々木上原町一二九六、壽館內
笹川　嘉隆	（絲二七）	（勤）橫須賀海軍航空技術廠飛行機部（住）橫須賀市追濱區三丁目一一八三、杉山市郎方
岡田　廣太	（絲二七）	（住）東京市淺草區向柳原町一ノ二、千村多三郎方
佐藤　廣一	（紡二）	（勤）德島縣板野郡北島町高房、日本油脂株式會社織維部德島工場（勤務先社名改正）
上田　和男	（紡六）	（勤）全上
市原　安臣	（紡七）	（勤）岐阜市宇佐海草、日本毛絲紡績岐阜第二工場（住）岐阜市本莊羽衣町一丁目
小林　忠十郎	（紡一〇）	（勤）從前通り（住）橫濱市中區本牧三ノ谷一九六
手塚　勇	（紡一二）	（勤）德島縣板野郡北島町高房、日本油脂株式會社織維部德島工場（勤務先社名改正）
星田　馨	（紡一二）	（勤）岐阜市、大日本紡績岐阜工場（住）岐阜市五坪町一四四六（舊、兵庫支會）
菅尾　源治	（紡一五）	（勤）和歌山市玉藻町二ノ五、昭和紡績株式會社（住）和歌山市岡町九一（舊、丹綾會）
久芳　大三	（紡一六）	昭和十五年五月九日戰病死
平林　孝方	（紡一七）	（勤）東京市荒川區南千住町七ノ一、陸軍製絨廠教育部
阿久津　伊平	（紡一七）	召集解除（住）鹿兒島縣薩摩郡宮之城町虎居
西谷　剛一	（紡一八）	（勤）中支、大師部隊
村木　才登	（紡一九）	（住）山口縣防府市醬園町、柳青莊內
白川　孝治	（紡一九）	（勤）大阪府岸和田市外津田、東洋麻絲紡績株式會社（住）岸和田市岸城町一八一二、玉井利幸方
伊藤　幸枚	（舊教）	（住）長野縣埴科郡雨宮縣村字雨宮
小林　志壽子	（教一）	（勤）滿洲國東安省東安陸軍官舍一〇九號三
清水　藤江	（教三）	（勤）ナシ（住）長野縣小縣郡塩尻村
原　みつ子	（教六）	中村ト改姓（住）長野縣埴科郡埴生村櫻堂、小林甚吾方
西澤　正江	（教七）	（勤）栃木縣下都賀郡小山町、昭榮製絲小山工場（住）全上

御宴會に　御會食に
レストラン
香青軒
明朗な洋室　落付いた
和室（數室）
上田市袋町　電話13番

御來田のお土產は……
みすゞ飴　上・のフルーツ
晒水飴　栗羊羹
杏羊羹　黑羊羹
信濃そば　クルミ羊羹
米煎餅　果物類罐詰
上・飯島商店
上田市松尾町
電話（長）二六〇　（販賣部）三五四

信濃路の旅に！
善光寺詣りに！
母校訪問の折に！
清流千曲川畔
戶倉温泉
千曲會指定旅館
笹屋ホテル
電話　戶倉　特長三番・一〇番
一三番（別館）
一〇三番（別莊）
三四番（驛前案內所）
上山田　一七番
東京出張所　下谷（83）六六四五番

御入信の節は
何卒御光來を！
上山田温泉
千曲會指定旅館
清風園
電話　上山田代表五六番
上山田一六番
戶倉三六番
別館電話上山田一一四番
御靜養には
感じの好い別莊を

別所温泉
千曲會指定旅館
花屋ホテル
電話　一三番　三一番
柏屋別莊
電話　一二番
茶代廢止

千曲會指定旅館
信州戶倉温泉
上田館
電話　戶倉二七番
信州上山田温泉
家庭風呂
浴室付貸別莊
圓山莊
電話　上山田長一〇九番
戶倉七五番

〃自由誌〃第二號
締切期日九月二十日迄延
期致します
是非御投稿の程を
養蠶科十四會係

編輯室より

△…校長並に野口敎授には旅中恙無く充分な視察を遂げられ元氣一杯にて歸校されて安堵した。で早速御疲れの處を煩はして先づ野口敎授の「最近の支那紬業事情に就いて」の記事を得た。各位の必讀を推める。又校長の滿洲視察記事は追つて玉稿を願つて來月號にて各位には御覽願ふ豫定である。

△…梅雨期と言ふに來る日も〳〵お天氣續き、之では作物でない吾々迄も悲鳴を擧げざるを得ない。今年も亦旱害と思ふ丈でもさむ氣がする。

△…此の頃に同窓生三名が殉國の英靈となられた。遺族の方には誠にお氣の毒で、惜しみても〳〵哀惜の情無量である。

△…校外實習期に入つて製絲科三年生は已に夫々實習に就き、今月末からは各科二年生が出發する。亦先輩各位には何かと御世話になるが宜しく御指導御啓發願ひ度い。

△…暑中も間近い。お互に健康で朗らかでありたい。例年通り暑中見舞廣告を募集する。冗費節約が出來、特に親しみの深く吾等の時報を利用願ひたい。

千曲時報編輯室
小松忠一郎
町田博

優良蠶種御案內
◎昭和十五年初秋、晩秋蠶種（冷浸並に即浸）
日一一五號×支一〇八號
日一一一號×支一〇八號
日一一一號×支一一二號
◎昭和十六年春蠶種
支二〇號×支一〇九號
日一九號×支一〇八號
日一一四號×支一〇八號
（優良品種…適地分場）
廣島縣御調郡奧村字綾目
蠶種業　小川保
電話市村局十一番（甲本宅　乙蠶種部）
振替（廣島二四六番　大阪二〇七六三番）
◎電報市村局別使配達料不要